

# 決算説明資料

2022年度第3四半期決算概況

2023年2月1日



### **(注意事項)**

本資料に掲載されている住友化学の現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しです。これらの情報は、現在入手可能な情報から得られた情報にもとづき算出したものであり、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績等に重大な影響を与えうる重要な要因としては、住友化学の事業領域をとりまく経済情勢、市場における住友化学の製品に対する需要動向、競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場において住友化学が引き続き顧客に受け入れられる製品を提供できる能力、為替レートの変動などがあります。但し、業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。

## I.2022年度第3四半期決算

連結業績概要（対前年同期実績）	4
セグメント別売上収益	5
セグメント別コア営業利益	6
非経常項目内訳	7
連結財政状態計算書	8
連結キャッシュ・フロー	9

## II.2022年度予想

2022年度下期 事業環境見通し	11
業績予想修正（対前回予想）	12
親会社の所有者に帰属する当期利益分析 （対前回予想）	13
セグメント別コア営業利益 （対前回予想）	14
株主還元	15
業績改善の取り組み	16

## (参考資料)

2019年以降の事業ポートフォリオ高度化 （強化・縮小）	18
天然物由来農業資材メーカーの買収	19
セグメント別売上収益（四半期推移）	20
セグメント別コア営業利益（四半期推移）	21
セグメント別売上収益増減分析	22
セグメント別コア営業利益増減分析	25
主要グループ会社業績動向	30
地域別農薬売上収益	31

# I . 2022年度第3四半期決算

# 連結業績概要 (対前年同期実績)

単位:億円

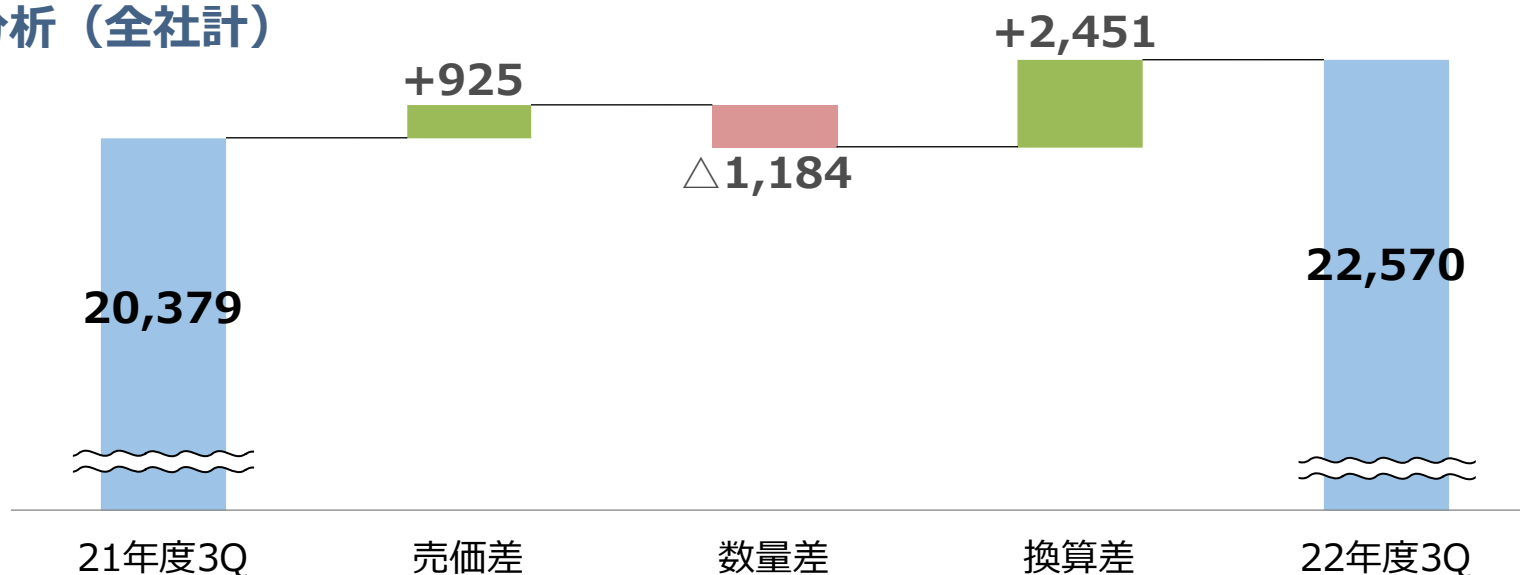
	21年度3Q	22年度3Q	増減	増減率
売上収益	20,379	<b>22,570</b>	2,192	10.8%
コア営業利益	2,057	<b>1,422</b>	△635	△30.9%
(うち持分法による投資損益)	(333)	<b>(128)</b>	(△205)	-
非経常項目	△77	<b>△707</b>	△630	-
営業利益	1,979	<b>714</b>	△1,265	△63.9%
金融損益	116	<b>233</b>	117	-
(うち為替差損益)	(156)	<b>(370)</b>	(214)	-
法人所得税費用	△539	<b>△531</b>	8	-
非支配持分損益	△220	<b>186</b>	406	-
親会社の所有者に帰属する四半期利益	1,337	<b>603</b>	△734	△54.9%
ROE	12.4%	<b>4.8%</b>		
平均為替レート (円/USD)	111.14	<b>136.49</b>		
ナフサ価格 (円/KL)	54,000	<b>80,000</b>		
海外売上比率	68.0%	<b>69.4%</b>		

# セグメント別売上収益

単位:億円

	21年度3Q	22年度3Q	増減	増減率	売価差	数量差	邦貨換算差
エッセンシャルケミカルズ	6,250	<b>6,755</b>	506	8.1%	455	△594	644
エネルギー・機能材料	2,267	<b>2,571</b>	304	13.4%	345	△119	79
情報電子化学	3,521	<b>3,386</b>	△135	△3.8%	△70	△648	583
健康・農業関連事業	3,310	<b>4,392</b>	1,082	32.7%	290	185	607
医薬品	4,563	<b>4,825</b>	262	5.7%	△95	△181	538
その他	469	<b>642</b>	172	36.7%	0	172	0
合計	20,379	<b>22,570</b>	2,192	10.8%	925	△1,184	2,451

## 増減分析 (全社計)

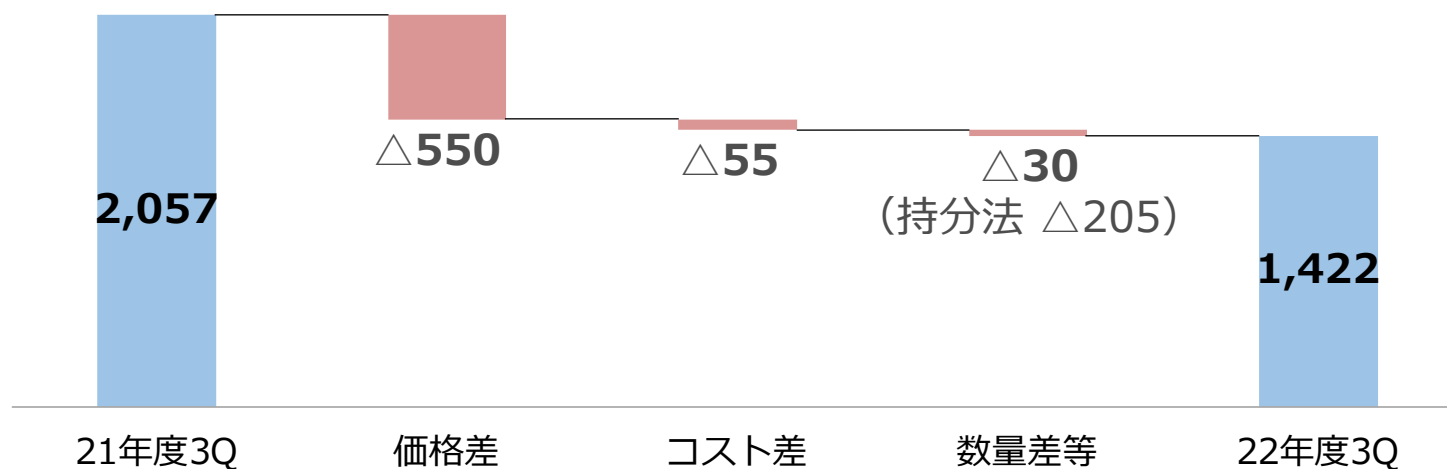


# セグメント別コア営業利益

単位:億円

	21年度3Q	22年度3Q	増減	価格差	コスト差	数量差等
エッセンシャルケミカルズ	520	△20	△540	△270	25	△295
エネルギー・機能材料	186	169	△18	△20	△10	12
情報電子化学	460	437	△22	△105	40	43
健康・農業関連事業	278	472	194	△60	△55	309
医薬品	625	431	△194	△95	△55	△44
その他 全社費用等	△12	△67	△55	0	0	△55
合計	2,057	1,422	△635	△550	△55	△30

## 増減分析 (全社計)



単位:億円

	21年度3Q	22年度3Q	増減
減損損失	△34	△564	△529
事業構造改善費用	△43	△220	△176
固定資産売却益	6	35	29
条件付対価に係る公正価値変動	△2	12	15
その他	△4	28	32
非経常項目 計	△77	△707	△630



# 連結財政状態計算書

単位:億円

	22.3月末	22.12月末	増減
流動資産	18,126	<b>20,952</b>	2,826
現金及び現金同等物	3,654	<b>4,996</b>	1,342
営業債権及びその他の債権	7,204	<b>6,913</b>	△291
棚卸資産	6,514	<b>7,652</b>	1,138
その他	754	<b>1,391</b>	637
非流動資産	24,955	<b>24,554</b>	△401
有形固定資産	8,230	<b>8,302</b>	72
のれん及び無形資産	7,156	<b>6,875</b>	△282
その他	9,569	<b>9,377</b>	△191
資産合計	43,082	<b>45,506</b>	2,425

	22.3月末	22.12月末	増減
負債	26,062	<b>27,475</b>	1,413
営業債務及びその他の債務	5,516	<b>5,499</b>	△17
有利子負債	13,505	<b>14,503</b>	999
その他	7,041	<b>7,473</b>	432
資本	17,020	<b>18,031</b>	1,012
株主資本	10,828	<b>11,094</b>	266
その他の資本の構成要素	1,353	<b>2,015</b>	662
非支配持分	4,839	<b>4,922</b>	84
負債及び資本合計	43,082	<b>45,506</b>	2,425
親会社所有者帰属持分比率	28.3%	<b>28.8%</b>	0.5%
D/Eレシオ (倍)	0.8	<b>0.8</b>	0.0

単位:億円

	21年度3Q	22年度3Q	増減
営業キャッシュ・フロー	990	<b>1,003</b>	13
投資キャッシュ・フロー	△851	<b>17</b>	868
フリー・キャッシュ・フロー	139	<b>1,020</b>	881
財務キャッシュ・フロー	45	<b>130</b>	85
その他	111	<b>216</b>	105
現金及び現金同等物の増減	295	<b>1,366</b>	1,071
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,904	<b>4,996</b>	1,092

## II. 2022年度予想















## 経済情勢

- 世界の経済情勢に改善の兆しなく、景気減速は拡大する見通し
- 為替が想定よりも円高方向へ振れたことにより、金融損益や円安メリットは縮小

## 下期事業環境の変化（対前回（11月）予想）

前回

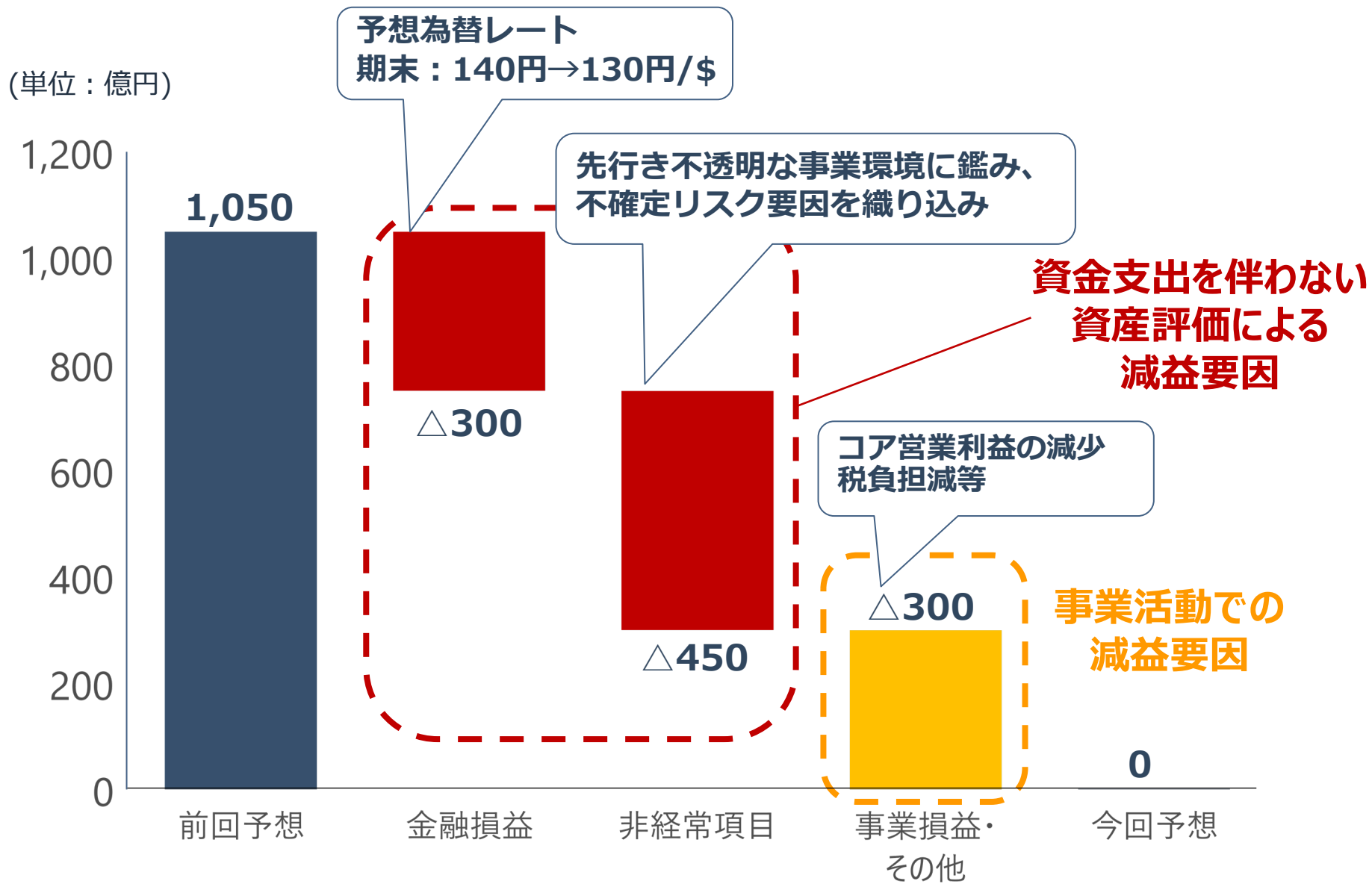
今回

石化・原料市況	市況低迷、需要減少は継続し、ラビグは大幅に損益悪化見込み		
自動車	生産の回復を期待するも、景気減速で需要は不透明		
ディスプレイ	円安メリットは縮小。需要回復の兆しは乏しく、ディスプレイ関連材料の出荷は減少傾向		
半導体	一部メモリー、ロジック向けで不透明感あるものの、堅調な出荷を見込む		
農薬	円安メリットは縮小も、北米、日本の需要期に期待		
メチオニン	需給緩和感から引き続き市況は低迷		
医薬品	ラツータのLOEを迎える。新製品の拡販に注力		

（単位：億円）

	2022年度 11月予想	2022年度 今回予想	増減
売上収益	31,800	29,900	△1,900
コア営業利益	1,900	1,200	△700
営業利益 (IFRS)	1,150	0	△1,150
親会社の所有者に 帰属する当期利益	1,050	0	△1,050

ナフサ価格	¥79,300/kl	¥76,500/kl
為替レート	¥137.02/\$	¥134.86/\$



# セグメント別コア営業利益（対前回予想）

（単位：億円）

	2022年度 11月予想	2022年度 今回予想	増減	増減要因
エッセンシャル ケミカルズ	0	△330	△330	製品市況や需要の低迷による 交易条件悪化、出荷の減少
エネルギー・ 機能材料	200	180	△20	
情報電子化学	510	410	△100	ディスプレイ関連材料の出荷減少
健康・農業 関連事業	770	670	△100	メチオニン市況下落
医薬品	360	370	10	ラツォーダ販売減少 (事業譲渡益は前回予想はその他、 今回予想は医薬品で計上)
その他	60	△100	△160	
合計	1,900	1,200	△700	

## 厳しい業績を踏まえ、期末配当については改めて公表

	中間配当	期末配当	合計
前回予想 (2022年5月13日)	12円	12円	24円
今回予想	12円	未定	未定
(参考) 前期実績	10円	14円	24円



## 1. 事業構造改革

—よりレジリエントな事業体質への転換

- ✓ 環境変化に対応した事業強化
- ✓ 市況に左右されにくい事業ポートフォリオへ

## 2. コスト削減・棚卸資産の圧縮・資産売却 ・投資の厳選

# (参考資料)

意思決定 年度	事業強化		事業撤退・縮小
	主な案件	意義	
2019	Roivant戦略的提携	ポストラツェダ候補剤を獲得し、 ラツェダLOE後の収益基盤強化	メチオニン第一プラント停止
	ニューファーム 南米子会社買収	世界的な農業大国である南米への 本格的な進出	
2020	S-RACMO設立	グループシナジーを生かして 成長著しい再生細胞CDMO事業へ	サンライズ加工センター・ 住化ファーム西条撤退
	レジスト能力増強/ 評価体制構築	将来需要へ対応するとともに、 ディスプレイ材料事業への依存度低下	
2021	核酸医薬プラント新設	低分子医薬から 次世代の核酸医薬事業へ	EPDM事業撤退
	半導体用レジスト・ ケミカル能力増強	将来需要へ対応するとともに、 ディスプレイ材料事業への依存度低下	
2022	米国半導体ケミカル 工場新設	アジア依存のビジネスからの脱却し、 需要が期待される米国へ進出	カプロラクタム事業撤退 染料事業撤退 医薬品ブロバナ、ゾペネックス、 ルネスタの販売権譲渡 SMP非医薬事業の株式譲渡
	ケミカルリサイクル 実証プラント（完成）	資源循環社会への実現に貢献	
	バイオスティミュラント 事業会社買収	当社非保有の製品・技術を獲得し、 バイオリショナル事業を強化	
			さらに複数の事業について見極 めを実施中

## 会社名

FBサイエンス社

## 事業内容

- ✓ 天然有機物を独自の方法で調達・加工した  
バイオスティミュラント・農薬等の開発・製造・販売

### ※バイオスティミュラントとは？

- ・ 市場規模35億米ドル、バイオラショナル分野の中で最大規模
- ・ 植物の栄養分吸収効率等の向上、植物の非生物的ストレスに対する耐性を高める効果を有し農作物の品質・収量向上に貢献。

## 買収の狙い

- ✓ 当社製品ポートフォリオ補完による業界プレゼンス向上
- ✓ 当社グローバルフットプリントを活用した同社製品の拡販
- ✓ 化学農薬との新たなシナジーも追及

高成長が見込まれる本分野は「攻め」の投資対象分野。  
さらなるM&Aも視野に事業拡大を加速。

# セグメント別売上収益 (四半期推移)

20

単位:億円

	21年度				22年度				
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q(予想)	年間予想
エッセンシャルケミカルズ	1,995	2,000	2,255	2,176	2,386	2,287	2,082	2,045	8,800
エネルギー・機能材料	744	741	782	897	864	871	836	1,029	3,600
情報電子化学	1,093	1,184	1,244	1,217	1,147	1,075	1,164	864	4,250
健康・農業関連事業	1,031	1,064	1,215	1,428	1,526	1,413	1,453	2,058	6,450
医薬品	1,392	1,704	1,467	1,354	1,677	1,667	1,480	1,075	5,900
その他	136	170	164	203	142	230	269	258	900
合計	6,390	6,862	7,127	7,274	7,741	7,544	7,285	7,330	29,900

# セグメント別コア営業利益 (四半期推移)

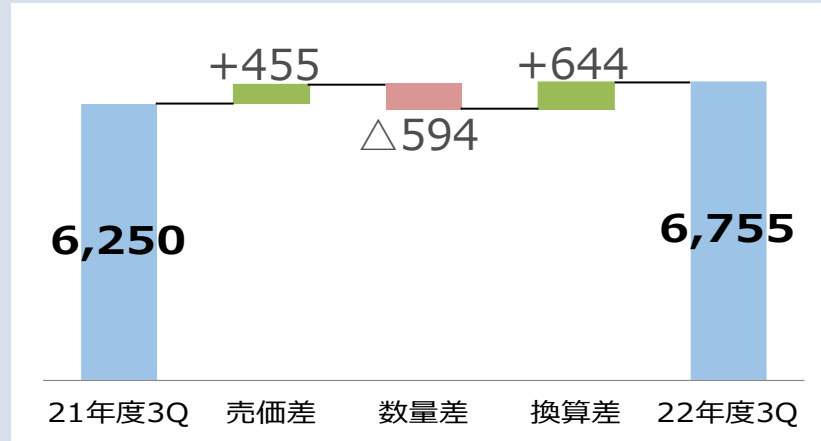
単位:億円

	21年度				22年度				
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q(予想)	年間予想
エッセンシャルケミカルズ	238	182	100	15	100	133	△253	△310	△330
エネルギー・機能材料	67	59	61	14	66	68	34	11	180
情報電子化学	135	160	164	119	158	107	173	△27	410
健康・農業関連事業	103	82	94	144	219	144	109	198	670
医薬品	96	403	125	△7	141	111	179	△61	370
その他 全社費用等	△23	△14	25	6	△43	△48	23	△33	△100
合計	617	872	568	291	641	515	265	△222	1,200

## セグメント別売上収益増減分析

## エッセンシャルケミカルズセグメント

## 売上収益増減



6,755億円 (前年同期比+506億円)

売価差  
+455億円

■ 市況上昇

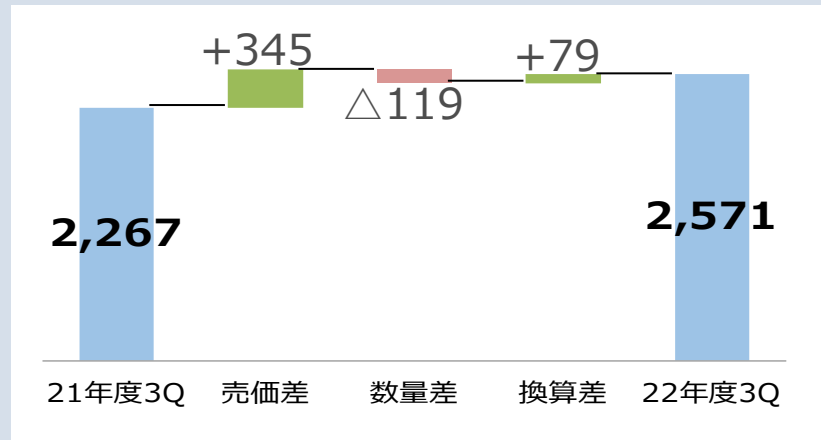
数量差  
△594億円

■ 自動車用途等出荷減 (合成樹脂等)

換算差  
+644億円

## エネルギー・機能材料セグメント

## 売上収益増減



2,571億円 (前年同期比+304億円)

売価差  
+345億円

- アルミニウム売価上昇
- 正極材料売価上昇

数量差  
△119億円

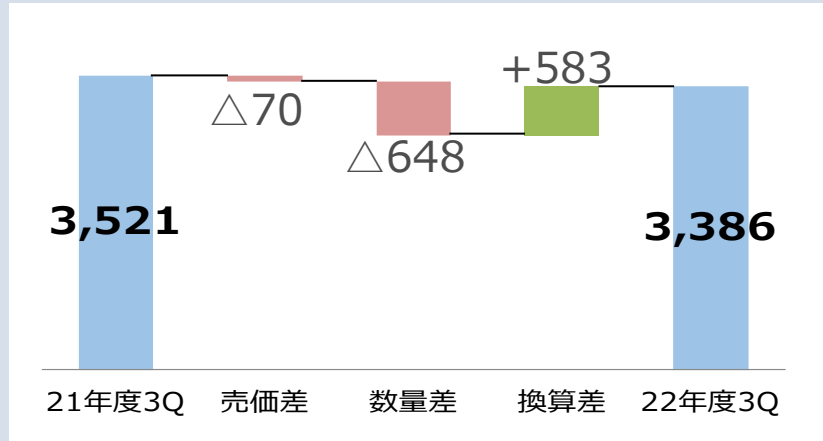
- 自動車用途等出荷減 (アルミニウム・レジジン等)
- リチウムイオン二次電池用セパレータ出荷増加

換算差  
+79億円

## セグメント別売上収益増減分析

## 情報電子化学セグメント

## 売上収益増減



3,386億円 (前年同期比△135億円)

売価差  
△70億円

- 偏光フィルム売価下落

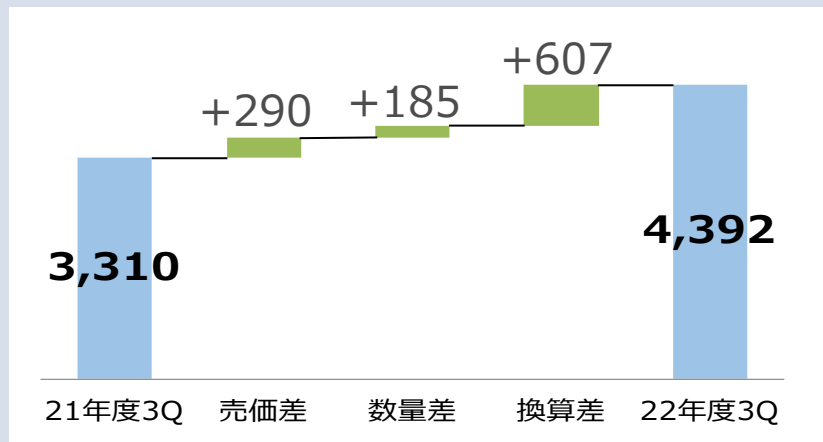
数量差  
△648億円

- ディスプレイ関連材料出荷減少
- 半導体プロセス材料出荷増加

換算差  
+583億円

## 健康・農業関連事業セグメント

## 売上収益増減



4,392億円 (前年同期比+1,082億円)

売価差  
+290億円

- 南米ジェネリック品売価上昇
- メチオニン市況上昇

数量差  
+185億円

- 南米・インドにおける農業出荷増加

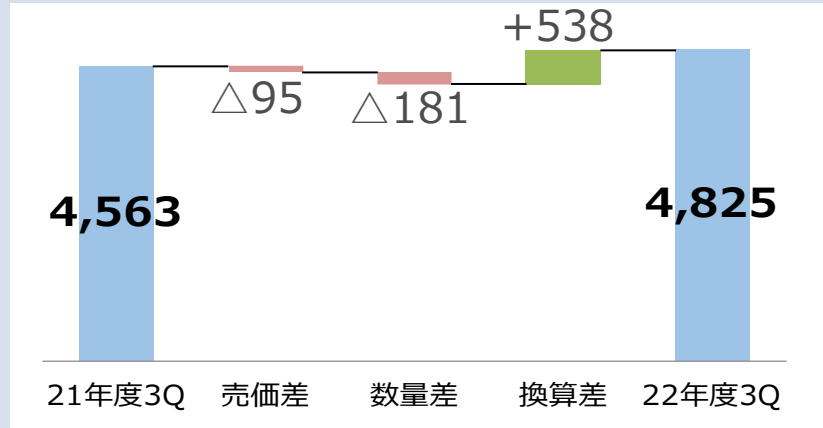
換算差  
+607億円



## セグメント別売上収益増減分析

## 医薬品セグメント

## 売上収益増減



4,825億円（前年同期比+262億円）

売価差  
△95億円

- 国内薬価改定

数量差  
△181億円

- 前年同期には共同開発・販売提携契約による一時金を計上
- 北米オルゴビクス・ジェムテサ等出荷増加
- オルゴビクス欧州販売ライセンス契約等による一時金の収益計上

換算差  
+538億円

エッセンシャルケミカルズ コア営業利益

△20億円 (前年同期比△540億円)



<b>価格差</b>	合成樹脂やメタアクリル、各種工業薬品等は原料・燃料価格の上昇に対し販売価格への転嫁が追いつかず交易条件が悪化
<b>数量差等</b>	持分法損益の悪化に加え、自動車用途を中心に需要が落ち込んだことにより出荷が減少

## エネルギー・機能材料 コア営業利益 169億円 (前年同期比△18億円)



### 価格差

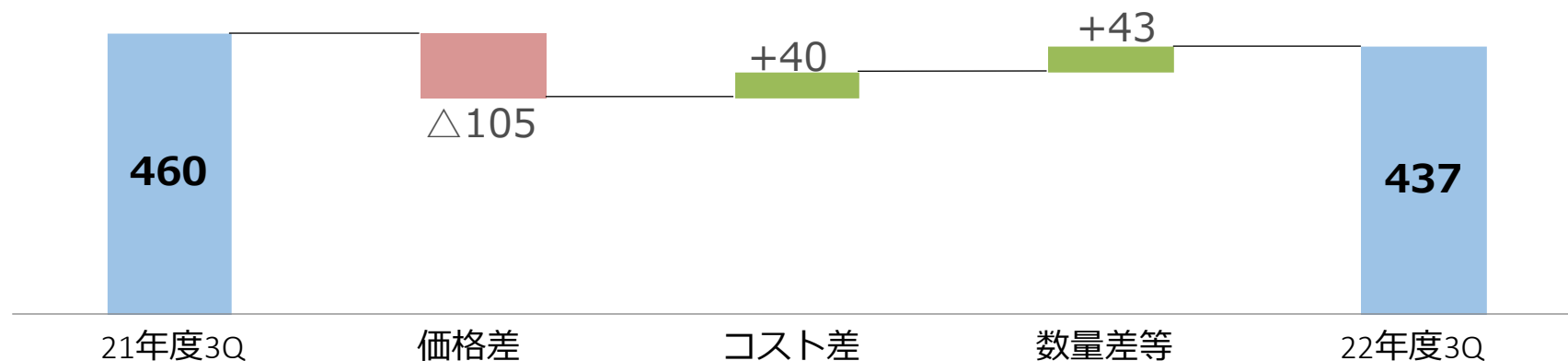
アルミニウムや正極材料は市況上昇に伴い交易条件が改善  
一方でレゾルシンや合成ゴム等は原料・燃料価格の上昇に伴い交易条件が悪化

### 数量差等

リチウムイオン二次電池用セパレータの出荷が堅調に推移するとともに、円安により輸出手取りが増加

## 情報電子化学 コア営業利益

437億円 (前年同期比△22億円)



### 価格差

#### ディスプレイ

偏光フィルム、タッチセンサーパネルの売価下落

### 数量差等

#### ディスプレイ

巣ごもり需要一巡・インフレによる消費マインドの悪化等により出荷が減少

#### 半導体

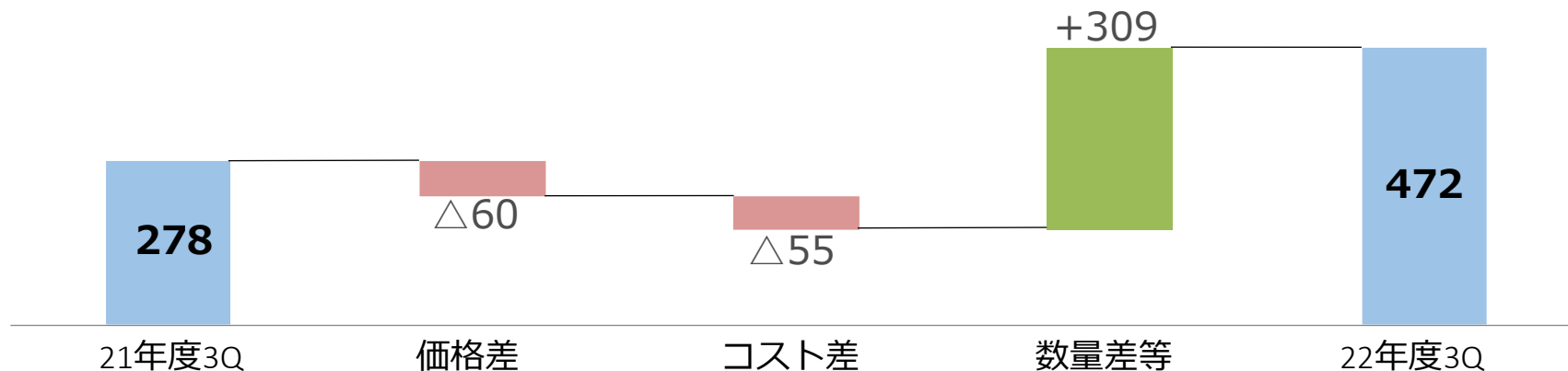
需要の伸長に伴い高純度ケミカルやフォトレジストの出荷増加

#### 全体

円安による輸出手取り増加・邦貨換算差益

## 健康・農業関連事業 コア営業利益

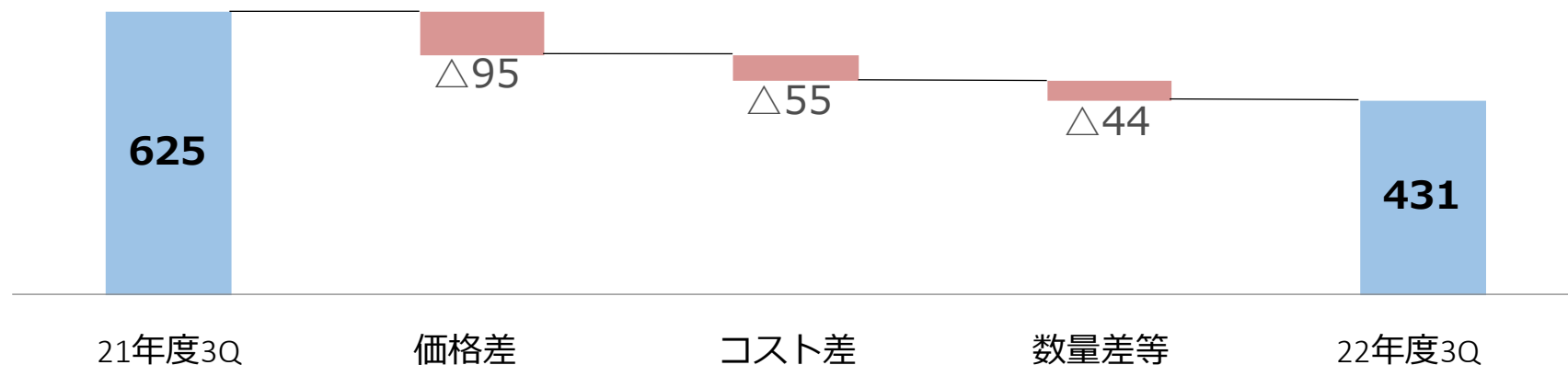
472億円 (前年同期比+194億円)



価格差	農薬	南米におけるジェネリック品の売価上昇に伴い交易条件が改善
	メチオニン	市況上昇の一方で、原料・燃料価格の上昇により交易条件が悪化
コスト差	農薬	INDIFLIN®垂直立ち上げや新規パイプライン開発費など、事業拡大に伴う経費増加
数量差等	農薬	南米およびインドで出荷が増加
	全体	円安による輸出手取り増加・邦貨換算差益

## 医薬品 コア営業利益

**431億円 (前年同期比△194億円)**



<b>価格差</b>	日本国内における薬価改定の影響により売価が下落
<b>コスト差</b>	スミトバント社グループにおいて、オルゴビクスやジェムテサ等の拡販に伴い、販売費及び一般管理費が増加
<b>数量差等</b>	北米でのオルゴビクス、ジェムテサ等の売上伸長に加え、オルゴビクスの欧州における販売ライセンス契約等による一時金を収益計上 一方で前年同期には共同開発・販売提携契約による一時金を計上

外貨ベース

会社名	売上収益		利益動向
	21年度3Q	22年度3Q	
ザ・ポリオレフィン・カンパニー (シンガポール) (百万USD)	942	<b>858</b>	↘ 交易条件悪化
ペトロケミカル・コーポレーション・オブ・シンガポール (百万USD)	2,071	<b>1,989</b>	↘ 交易条件悪化
ラービグ・リファイニング・アンド・ペトロケミカル・カンパニー (百万SAR)	32,522	<b>45,146</b>	↘ 石油精製マージンの悪化・石化品交易条件悪化
東友ファインケム (億KRW)	19,171	<b>16,513</b>	↘ ディスプレイ関連材料販売数量減少による減益
ベラント ノースアメリカ (連結ベース) (百万USD)	539	<b>562</b>	↘ 販売増による増収、コストアップ・経費の計画的な執行により減益

単位:億円

	21年度3Q	22年度3Q	増減	主な差異要因
日本	453	<b>502</b>	49	・肥料の原料価格高騰に伴う売価上昇
北米	383	<b>483</b>	100	・邦貨換算差
中南米	930	<b>1,589</b>	659	・邦貨換算差 ・出荷数量増加および売価上昇
アジア (インド含む)	398	<b>526</b>	128	・邦貨換算差 ・インドにおける出荷数量増加
欧州その他	148	<b>181</b>	33	・邦貨換算差 ・欧州における出荷増加
合計	2,312	<b>3,281</b>	969	